

基本理念

どんなに重い障害を持っていても“何か出来る”一人で出来なかったら、“みんなて助け合う”そして多くの方々との交流を大切にして、地域社会の中に生活の基盤を築いていきたい。

The

いずみ園 TIMES

生活介護事業所



編集・発行

社会福祉法人 緑の会 いずみ園

〒277-0042

千葉県柏市逆井341

TEL : 04-7176-8085 (代)

FAX : 04-7176-8087

e-mail : izumien@technowave.ne.jp

住み慣れた地域に "私の住まい"が!

社会福祉法人緑の会
理事長
滝本 二三江



ホームの表札です。↑

養護学校卒業後は送迎車で家庭から介護事業所「いずみ園」に通い、「重い障害がありながらも住み慣れた地域で普通に暮らす」この普通な社会生活は、親の高齢化進行に伴う家庭での介護の限界と、いつも親の脳裏をかすめる「親亡きあと」への不安感でありました。

法人「緑の会」は、これまで療護施設設置について準備し、行政に要望を続けてまいりましたが、国の方向性に伴い、平成二十二年に重度障害者の住居となるケアホーム建設のた



めのJプロ(重度身体障害者の生活の場建設計画プロジェクト)を設置して、用地の取得、設計管理者の選定、そして何よりも入居を希望される利用者、保護者と約一年間話し合いを行ってきまし



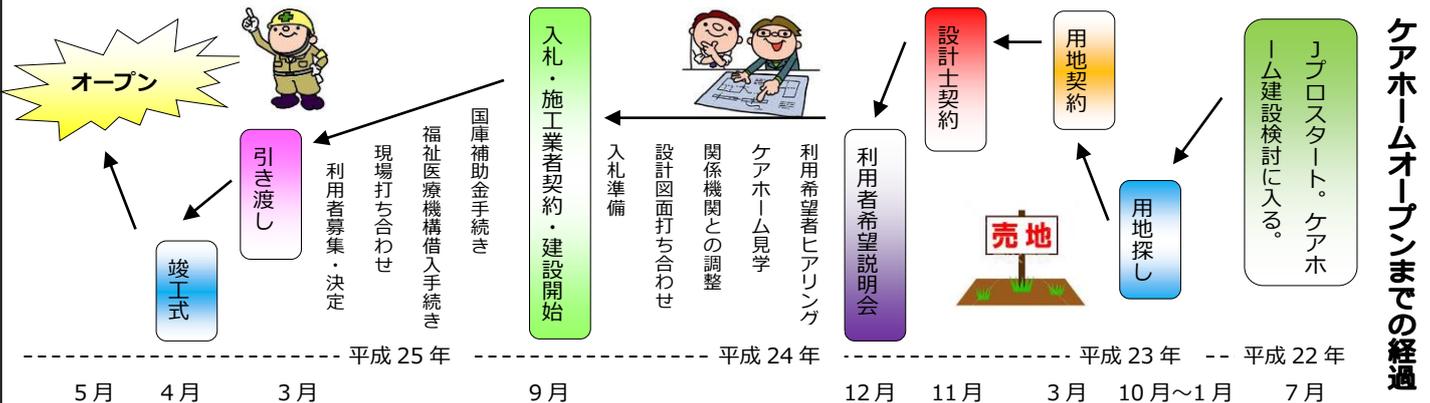
た。このたび柏市のご理解はもとより多くの方々のご支援により、柏市増尾台に重度障害者の生活の場としてケアホームを建設し、平成二十

五年五月十五日より(男性4人、女性4人、2床の短期入居)入居が始まりました。入居者それぞれの部屋の家具等には、ご両親の愛情いっぴいの雰囲気が醸し出されていて、「私の住まい」は笑顔と不安を織り交ぜてスタートしました。生活の介護についてはバックアップ施設となる「いずみ園」職員が交代で担い、何もかも初体験の中で3ヶ月経過しました。生まれ育った家からの自立生活には、まだ助走の感が拭えませんが、親亡きあとではなく、親が元気なうちの将来設計の一つであろうと思っているところです。



増尾台の静かな住宅地で、地域の一員としての生活が始まり、自立へ向けて一歩踏み出した重度障害のある入居者の生活を、どうぞ応援してくださいませよう宜しくお願い申し上げます。お近くにおいでの際は是非お立ち寄り下さいませ。

「私の住まい」は笑顔と不安を織り交ぜてスタートしました。生活の介護についてはバックアップ施設となる「いずみ園」職員が交代で担い、何もかも初体験の中で3ヶ月経過しました。生まれ育った家からの自立生活には、まだ助走の感が拭えませんが、親亡きあとではなく、親が元気なうちの将来設計の一つであろうと思っているところです。



増尾台ウィズホーム

ケアホーム・ショートステイ

4カ月半たちました！

身体障害者のためのケアホーム（柏市増尾台・8人定員）がおかげ様で今年五月十五日にオーブンすることができました。始まってすぐは利用者、保護者、職員各々大変だったと思いますが、ようやく一段落した今、感想や新たな気づきなど、それぞれの立場でお話をお寄せいただきました。ホームでの生活を写真で振り返りながら紹介していきたいと思っています。



【声】

利用者さんの

最初のうちは入居前から不安がだんだんと大きくなっていき、大変でしたが、今となっては自分の頑張りと周りの人たちのサポートのおかげでここまで来ることができています。そして生活の場が実家からホームへ移ったことを日々の中で実感しています。

居室で靴下を自分で履き替えている小森さん←



小森達也



←男性利用者が食事中。野菜中心の食事がテーブルに並んでいます。



女性利用者の、わきあいあいの食事。写真撮影に思わず笑みが出ます。→

リビングでお茶をしながらテレビをみて過ごす福元さん←



（質問に答えていただいたものをまとめました）ウィズホームの生活は楽しいし、お家から離れても寂しくありません。最初からそうでした。これからも頑張っていきます。



福元 優

自分の部屋でゆっくりとくつろぎ、何をするでもなく過ごしている喜多さん→



私たちの家の「ウィズホーム」に五月十五日から住んで約3カ月たちます。最初は親元からはなれて、不安と心配で私たちが皆さんと一緒に生活が出来るのかと思いましたが、今では皆さんがだんだんとなれて来て、ボランティアさんが来てお話をしたり、アさんが来てお話をしたり、外食をしたり、色々な場所に連れて貰えたりして楽しいことばかりです。でも、この先寂しいことや悲しいことがあると思いますが、皆さんと一緒にのりこえて、力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

喜多三奈子

私はホームに入居するまで家族と一緒に暮らしてきました。母からホームの話を聞いて、できるだけ自分の力で自立した生活をしたいたいと思いい入居しました。少し不安でしたが、今は洗濯物の片づけや日用品の買物は職員の方に手伝ってもらいながら楽しく行っています。これから、もっと自分ができることを増やし、病気になるようなうに気を付けながら皆さんと仲良く暮らしていきたいと思っています。



田原京子





保護者の声

【声】

「巣立ち」 鳥海和子

今年五月十五日ケアホームが開所し息子も入居させていただきました。九百八十グラムの超未熟児で生まれて三十二年間、隣にいるのが当たり前のように共に生活してきた息子が、手元から巣立っていくことはどんなに寂しいことか...と思っていました。息子が自立していく喜びの方が勝っていました。息子の方も、ケアホームで生活するようになって心なしか大人になった気がします。お世話してくださる職員の方々にはお手数をおかけしますが、ホームの皆が楽しく生活できることに感謝しています。

「ウィズに入居して」 富田元二

長い間熱望してきたケアホームに入居することができてこの上ない喜びです。入居前には色々心配事が多く非常に不安でしたが、入居後四月過ぎた今日では全てが取り越し苦労でした。我々が考えていたよりも本人はウィズでの生活を楽しんでいきます。お世話をして頂いている職員の方々が、親である我々も気付かない所まで細かく心配りをしていただき感謝しております。高齢となった我々だけで介護を担うことは大変なことです。ウィズにお世話になる事で体力的にも精神的にも安定した日々を過ごさず事ができます。有難うございます。

「増尾台ウィズホーム」 平川和子

いずみ園がケアホームを作ると発表された時に、里美がどこまで理解していたのかわかりませんが、真つ先に「入りたい」と言ったのには驚きました。入居してから単なるお泊りでないことに気づき、ずいぶん悩んだことだと思います。しかし、いずみ園でお世話になっていく職員が入ってくることで、毎日いずみ園に通って仲間達に会えることで、最近涙を見せる事も少なくなり、頑張っているように親としても安心しています。



職員の声

【声】



→職員が夕食の準備をしているところで利用者さんも参加。



→ホームエレベーターでの移動介助をする増淵さん

増淵則子 (ホーム長)

「行つてらっしゃい。お帰りなさい。」ウィズホームで私が大切にして言っている言葉です。五月十五日、大きな期待と小さな不安を抱えて皆さんは自立への一歩を踏み出しました。不安や戸惑いもあつたかと思いますが。職員も手探りでしたが、毎日美味しく食べ、よく眠り、元気でいずみ園に通つていただく事を心の柱にして皆さんと過ごしてきました。ようやく生活の流れができてつづつある今日この頃です。今後も二つの言葉を大切にしながら増尾の地に根をはり、近隣の皆様にも親しまれるホームを目指していきたいと思っております。

布施貴普 (ホーム長補佐)

五月十五日よりホームでの生活が始まり、ドタバタの毎日利用者の方一人ひとりの生活をどのように把握して過ごすか日々悩みながらアツという間に月日が流れてしまいました。まだまだやるべきことは多いですが、職員一人ひとりが工夫しアイデアを出し合い自立にむけた支援ができたらと思います。様々な方に支えられてケアホームは成り立っています。今後ともご支援ご協力の程よろしく願っています。

利用者さんの居室で身支度をしている布施さん↓



↑ホームのリビングでテレビ雑誌を見ながらチャンネルを選んでいる平川さん

新利用者紹介

今年の四月からいずみ園の仲間入りをされました。落ち着いていてジェントルマンの風格を持ち合わせていらっしやいます。何か一言の問いには、「よろしく」とのことです。お願いします



柏市あかね町在住

松戸特別支援学校高等部 平成24年度3月卒業



逆井小学校
吹奏楽

柏おやしダンサーズ



チーバくんが

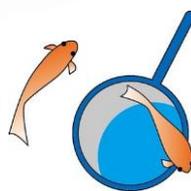
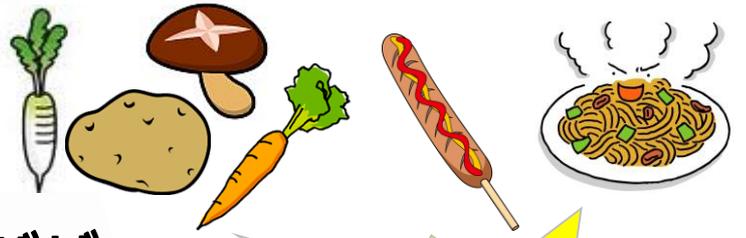
来るよ!

いずみ園祭

日時:平成25年10月20日(日)
11:00~14:00

野菜販売、模擬店、メダカすくい、射的

リサイクルバザー



ボランティア募集

いずみ園祭では、利用者と共に行動(移動・担当ブース等)して下さる方のご協力をお待ちしております!!

住所:〒277-0042 柏市逆井341番地

電話:04-7176-8085(代)

Email: izumien@technowave.ne.jp

時間:9時30分~15時

担当:齊藤貴彦まで

編集後記

異常気象の夏がようやく終わりを告げ、待ちに待った秋がやってきました。スポーツに目を向けると、東京オリンピック決定、柏レイソルがアジアチャンピオンズリーグ準決勝進出、プロ野球もポストシーズンへと新聞紙面を賑わしせ盛り上がっている様相です。この盛り上がりに乗っかり、マラソンを再開しなければと思う今日この頃。夜な夜なのお付き合いで弛んだこの体が、どれぐらいのトレーニングで元に戻るんだろう。(三井)

